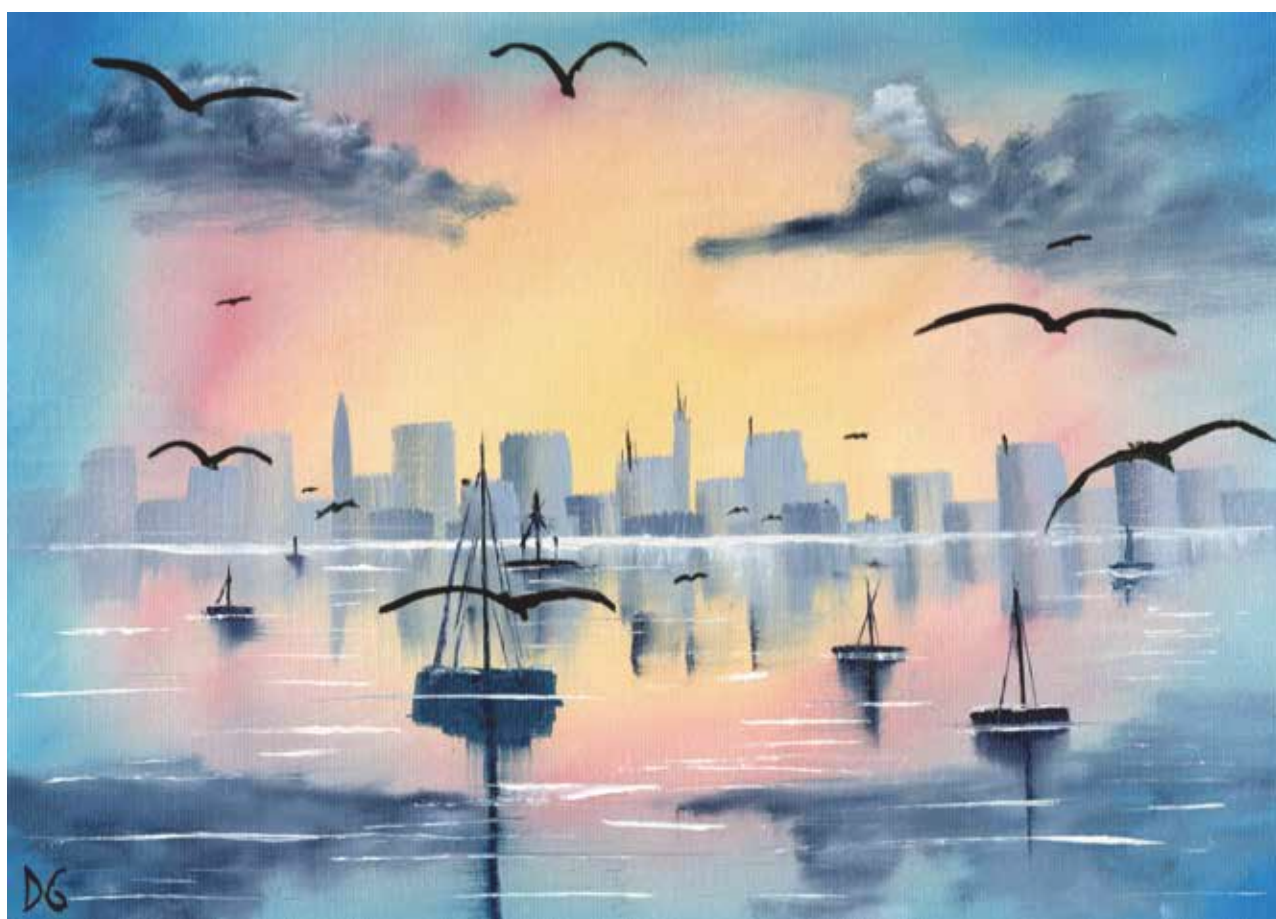


ふれんどりーたま

FRIENDLY TAMA VOL.

138

2022
春号



多摩市国際交流センター

やがて **楽しい** 外国語

1 今勉強していて一番楽しいところは何ですか。

✿クラスでの授業はもちろん、街へ出て外国人と直接話せること（まだまだ未熟ですが）宮寄・英語

✿先生や仲間と一緒に楽しく英語の力を伸ばすことができること（大島）・英語

✿世界が広がる事。大統領の Twitter に生で触れられ、現地の空気を感じられる。以前ハングルをかじった時、韓国に対する狭い見方が崩された。外国語を学ぶことは自分の視野を広げ、楽しみも多彩になる。（旗野）・英語

✿英語は外国人との意思疎通のツールとして比較的使いやすい。世界の人々のコミュニケーションのツール（吉川、H.Y）・英語

✿先生が様々な国の方なので、気がつかなかった国を知ったり、日本をどのように感じているかを知ることができる。（増子）・英語

✿クラスでタイが大好きな素敵に方々に会えたこと。その土地の言葉で会話する方が、その国の人と気持ちが通じる気がする。（田中）・タイ語

✿世界唯一の人工文字により、近くて遠い国と称される隣国、韓国の思考方式を学べる点。（大島）・ハングル

✿中国語と日本語の表現方法の違いを発見するのが面白い。中国語は主体が自分であり、日本語は主体が自然とか他人が多い。（日比野）・中国語



2 勉強している言語を日本や海外で使ったことがありますか。

✿東京都の「ボランティアガイド」をしているので、外国人から目的地への交通手段などを聞かれる。出来るだけ具体的に教えてあげる。またご夫婦で写真を取りたい外国人がいる時に、声をかけて一緒に写真を撮ってあげる。（宮寄）・英語

✿旅行先で現地の人との交流に英語を使っている。出入国手続きなど。（H.Y、楊、吉川）・英語

✿外資系会社に出向していた 50 代、会議で一人でも外国人が加わるとすべてが英語になってしまい、まともに会議に参加できず、情けない思いをした。（旗野）・英語

✿海外旅行をした時コーヒーショップで何がお勧めかと聞いたらろうじて通じ、緊張感と驚きと喜びを感じた。（増子）・英語

✿タイに住んでいたため、お手伝いさんや運転手さんと日常的に使っていた。市場の叔母さん達とお喋りや現地のクリニックも何とか自分で対応できた。（田中）・タイ語

✿新宿の酒場で仲間と飲んでいたら、他のテーブルの韓国人グループと意気投合し、韓国ソングをカラオケで歌いまくった楽しい思い出がある。（大島）・ハングル

✿中国旅行の際使用したがなかなか通じず、慣れが必要と感じた。（日比野）・中国語



3 勉強している言語のどんなところが難しいですか、又どこが簡単ですか。

◇ヒアリングができないと会話がスムーズに進展しない。先生にはゆっくり、はっきり話してもらおうようお願いしている。話すときも自分の頭の中に入っている表現はすぐ出てくる。（宮寄）・英語

◇一度日本語で考えてしまうと英語が出づらくなる。単語が覚えられないのが難しい。簡単なのは相手の立場に合わせることはなくはっきり言えること。（H.Y）・英語

◇先生の話す内容が十分理解できない。聞こえる単語をつなげて何とか頑張っている。（旗野）・英語

◇すべてが難しい。自分が覚えたものを使う場面に遭遇しない。（増子）・英語

◇日本語には無い発音と声調が難しい。声調が違えば意味が全く変わってしまう。簡単なのは文法。過去、未来などの動詞の変化がない。（田中）・タイ語

◇ハングルの難しい点は曖昧な推量表現で、特に相手にどの程度失礼に当たるか予測しにくい。文字の習得は簡単。（大島）・ハングル

◇語彙の量が足りないため、言いたいことが言えない。思ったことがなかなか表現できない。単語が出てこない。（楊、吉川、大島）・英語

◇日本語で意識すると難しいので、直接言語で思考できるようになれば、近道かと思う。（日比野）・中国語



4 この言語で何をしたいですか。また TIC でどのように活用したいか。

♣あらゆる場面で英語のやり取りができるようになりたい。「道案内」「一緒に食事」「相手国の状況や、日本への理解」などを話したい。TIC の活動を理解してもらい国際交流を深める。（宮寄）・英語

♣海外旅行で直接、生の会話ができると楽しいと思う。（日比野、楊）・中国語、英語



エピソード ～英語が役に立ちました～

大島 真理子

一人でフランスから日本に帰らなければならなかったとき、TGV のアヴィニヨンの駅でチケットを出したら「これはこの駅ではなく、近くの駅のチケットですが、もう間に合いません」と言われ絶望的になりつつも、「今日東京に帰らなければならないのでパリまで行きたい」と言ったら無料でパリまでのチケットを渡してくれた。で、列車には乗ったが車両を間違え、「車両が繋がってないのでたどり着けない」と言われ、どうしようかと思ったら車掌さんが空いている席を紹介してくれやっとなりに到着した。この時の親切なフランス人と、英語は海外旅行では必須だと強く思ったことは深く印象に残っている。





感動的な多摩市

エキンヂ・エルディンチ (トルコ)



私はエルディンチです。トルコから来ました。アメリカのシリコンバレーで「Openfor.co」という小さな会社を立ち上げました。共同開発舞台としてパートナーシップを作るために世界中の人とビジネスで繋がることを目的としています。私の共同経営者は妻です。彼女とはアメリカで会い、一緒に会社を作りました。彼女はミャンマー人で以前8年ほど日本で暮らしたことがあります。私たちは2年半前、まだコロナのパンデミックが始まっていない時、以前何回か訪れたことのある日本に行くことを決めました。様々な理由はありましたが、日本人のクライアントがいたことに加え、日本の環境、食べもの、文化が好きだったからです。

最初の6か月は東京の都心に住んでいました。便利でしたがアパートは狭く、家賃は高く、アウトドアでの楽しみがありません。コロナ感染症がパンデミックとなってからは、家賃の高い、小さなアパートで暮らすのは限界でした。幸いにもリモートでの仕事が可能だったので、部屋数があり、緑の多い、1時間以内で都心に出られる場所を探し、ついに見つけたのが、多摩市永山です。ちょうどパンデミックの始まった頃からで、もう2年になります。

COVID-19はすべての人に影響していますが、厳しい状況は私たちを強くもします。持っているものに感謝し、自分が健全で、安全な環境にいることを幸運に思います。実際、通勤の必要がなく以前より時間が使えるので、「openfor.co/fellowship」という若い人を対象のオンラインコミュニティを立ち上げました。スタートしてから約20か国、3000人からの申し込みがあり、その中から120人を選んで国際的な仕事を与え、起業家としての訓練をし、研修期間と仕事のチャンスを提供しました。

私は多摩市に恋しています。ここは私に多くのことに取り組む勇気を与えてくれました。リモートで働く外国人や新しい友達と好きなことができています。新宿や池袋へは快速で30分で行けます。特にアウトドアがすきなので、美しく整備されている多くの公園があり、緑豊かな山があり、ちょっと足を延ばせば海水浴もできる多摩市は、サイクリングやハイキング、水泳が好きな私にとって最高の場所です。今までに自転車で多摩周辺のいろいろな素敵なおとろを走りました。ここに住んでいることに感謝です。新しい出会いがあり、新しい人とつながれるよう常に自分の心を広くオープンにしたいと思っています。



THE INSPIRATION OF TAMA CITY

Erdinc Ekinci (Turkey)

Hello, everyone! I am an entrepreneur and have a small startup company called openfor.co in Silicon Valley, USA. It's a partnership development platform, we find and connect businesses from around the world to build partnerships. My co-founder is actually my wife. I met her in the US and we started our company there. She is from Myanmar, and she has ever lived in Japan for almost 8 years at that time. We decided to move to Japan two and a half years ago just before the COVID pandemic hit. Before we decided to move to Japan, I visited here several times. There were many reasons to move to Japan, we have some Japanese clients, and of course, we love the environment, food, and culture.

When we started to live in Japan, we used to stay in Tokyo downtown for 6 months. It's convenient but apartments are so small, expensive, and have few outdoor activities. Since the pandemic hit, living and working in a small apartment become unbearable. Luckily we are possible to work remotely. That's why we started to look for a place which has bigger apartments, more rooms, lot's of greenery and still possible to commute to the downtown less than an hour. Finally, we found the perfect place... Tama City, Nagayama!

It has been 2 years since we moved here, right after the global pandemic hits. COVID pandemic is affecting everyone. I believe hard times are making us even stronger. We feel grateful for what we have and feel lucky that we are possible to stay in this wonderful environment healthy and safe. Actually, we even have more time to try new things than before, because we don't need to commute anymore. So we during COVID decided to start an online youth community called openfor.co/fellowship. Since we started, a total of around 3,000 youths from over 20 countries applied and 120 youths were selected and we gave international career and entrepreneurship training, provide internship and job opportunities to them.

I have already fallen in love with Tama City, and it inspired me to do so many things. I wish we can attract a lot of remote working foreigners so we can do a lot of things that I love with new friends! especially outdoor activities. Tama has so many beautiful, neat, and well-maintained parks. Also, it's very convenient, from Nagayama, it is possible to go to downtown places like Shinjuku and Shibuya in 30 mins via Express Train, and easy access to mountains for hiking and beach for swimming in less than one hour. We really love outdoor activities especially biking, hiking and swimming! We were able to explore so many beautiful things around Tama City even by bicycle. I feel very grateful to live in friendly Tama! I'm always open to connecting and meeting with new people.



私の好きな本・音楽・スポーツ

MY FAVORITE BOOKS, MUSIC AND SPORTS



秋の一人旅

ホアン ティ フエ (ベトナム)



秋の京都に一度行ってみたいかっただのですがコロナの影響で何度も延期になりました。去年の秋、感染者も大幅に減って良いタイミングだとひとり旅を決めました。直前に休暇申請し上司が教えてくれたスマートEXアプリで新幹線のチケットを予約しました。

1日目、名古屋で降り遅れてしまい、車掌さんに京都駅到着後無料で名古屋に戻れるよう連絡書を書いてもらいました。名古屋から従妹のいる岐阜県への電車も間違い、夜遅くやっと到着しました。

2日目は従妹と一緒に京都へ行きましたが、3年間会えなかったのでおしゃべりが止まりませんでした。京都観光後夕方従妹と別れて大阪に移動しホテル近くの「ときすし」寿司店へ行き、一番人気の寿司焼きと生ビールを楽しみました。カウンターのおじいさんは英語が上手で真面目そうな人でした。

3日目は新世界や難波へ行きました。初めてフグを食べましたが予想より味が淡泊でちょっとがっかり、たこ焼きや串カツも食べました。

4日目は京都へ戻りました。金閣寺へ行くのに、表示の「Kinkakuji」と「Ginkakuji」を間違って時間を無駄にしました。清水寺でお茶と生八ツ橋を味わい、夜は嵐山に行きましたが、多くのお店がコロナの影響で営業していませんでした。大阪に戻り、入った焼鳥屋ではちゃんとメニューを読まなかったので思ったより高く支払うことになりました。

最後の日は大阪城を散策しその後奈良観光して東京へ戻りました。府中駅に着いたとたんICカードを紛失した事が分かりましたが、駅員が優しくきっぷの清算の仕方を教えてくれました。

今回の旅は計画の通りに行きませんでした。一人旅は寂しい時もあるし、大変ですが、電車やホテルの手配、知らない土地での注意などが勉強になりました。それにその土地の料理を味わい、きれいな景色も楽しみました。今後コロナが終息したらまたいろいろな所へ行き、様々な体験をして良い思い出を作っていきたいと思っています。



SOLO TRAVEL IN AUTUMN

Hoang Thi Fue (Vietnam)

I've wanted to visit Kyoto in autumn, but it was postponed many times due to the corona. Last autumn, I decided to travel alone thinking that it would be a good time because the number of infected people had decreased significantly. I applied for a last minute vacation leave and booked a Shinkansen ticket using the Smart EX app that my boss told me.

On the first day, I missed to get off at Nagoya, then when I arrived at Kyoto Station I asked the conductor to write for me a *renrakusho* or a report so that I could return to Nagoya without charge. Besides, from Nagoya to Gifu Prefecture, where my cousin lives, I took the wrong train and finally arrived to her place late at night.

On the second day, I went to Kyoto with my cousin, and since we hadn't seen each other for three years, we couldn't stop talking. After sightseeing in Kyoto, we parted in the evening and left for Osaka. I went to a sushi restaurant, Toki Sushi, near my hotel where I enjoyed the most popular grilled sushi and draft beer. The old man at the counter spoke good English and seemed to be honest and trustworthy person.

On the third day, I went to Shinsekai and Namba. It was my first time to try fugu (pufferfish), but I was a little disappointed that it tasted bland. I also ate *takoyaki* and *kushikatsu*.

On the fourth day, I went back to Kyoto. I wasted a lot of time going to Kinkakuji Temple because I mistook the sign "Ginkakuji" to "Kinkakuji". I enjoyed the flavor of tea and raw *yatsushashi* at Kiyomizudera Temple, and then went to Arashiyama at night, but many shops were not open due to COVID. When I returned to Osaka, I went to a *yakitori* restaurant but ended up paying more than I expected because I didn't read the menu properly.

On the last day, I took a walk around Osaka Castle and then went sightseeing in Nara before returning to Tokyo. As soon as I arrived at Fuchu Station, I found out that I had lost my IC card, but the station staff kindly told me how to pay for my ticket.

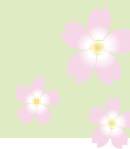
My trip this time did not go as I planned. Traveling alone can be lonely and difficult at times, but I learned how to make arrangements for trains and hotels, and to be careful in places I'm not familiar with. I also enjoyed the flavor of local cuisines and the beautiful sceneries. When COVID is over, I would like to go to many places again and experience a variety of things to make good memories.

TIC 専門部活動の紹介

INTRODUCTION OF ACTIVITIES OF TIC SPECIAL DIVISION

ユース国際交流部

YOUTH INTERNATIONAL EXCHANGE DIVISION (YIE)



代表 吉岡 珠江

Tamae Yoshioka, Representative

ユース国際交流部の活動は子ども(小・中学生)を対象に行っています。発足時の話を聞くと、TICが活動を始めた頃には子どものための事業は組まれていなかったそうです。子どもにも国際交流の体験をさせることの必要性を感じ、YIE ができたそうです。現在はコロナ禍のため、国際理解授業と大使館訪問の活動は休止しています。そこでコロナ禍前の活動について紹介します。



Activities of YIE are intended for elementary and junior high school students. I heard that TIC had not had a project for children when it had come into operation. It seemed that it was necessary to let children have an experience of international exchange, therefore, YIE was established. Because of covid-19 pandemic, our activities of international understanding class and visit to an embassy are suspended now. So, I introduce our activities before covid-19 pandemic.

1. 国際理解授業 多摩市在住の外国人が出身母国を紹介する活動で、①料理の体験(子ども達と講師の国の料理を作り、その後試食をする)と②お国紹介(講師が講義をし、その後言葉を教えたり、絵本を読んだり、その国の遊びをしたり)の二つです。年度始めにユース部会から各小・中学校に国際理解授業を行なう旨の案内書を送付しています。

1. International Understanding Class

This is an activity to introduce a foreign country where a foreigner who lives in Tama city come from by himself, which is divided into two parts.

① Cooking Experience (Children and a teacher cook and eat a local dish where he is from together.)

② Introduction of a country (A teacher gives a lecture about his country first. After that, he teaches language, read a picture book, or play a game of his country.)

学校から申し込みの申請書が届いてから、担当する外国人の講師を紹介します。事前に授業内容を学校と講師の間で打ち合わせを行い、授業が行われます。ユース部員は授業がスムーズに進むように常に講師をサポートします。講師は中国、韓国、マレーシア、インド、モロッコ、エジプト、ベネズエラ、ブラジル等の在日期間の長い方々です。外国の人と直接話すこと(日本語ですが)と未知の料理を作り、試食するという得難い経験は子ども達の心の中に強く残っているようです。

We send an announcement about international understanding class to each elementary and junior high school at the beginning of April. We introduce a teacher in charge to a school after receiving an application from a school. A teacher has meetings about content of his class with a school in advance, then his class is held. YIE members supports a teacher at all times in order to make his class go smoothly. Teachers are from several countries such as China, South Korea, Malaysia, India, Morocco, Egypt, Venezuela, or Brazil, and each teacher has lived in Japan for a long time. It is unforgettable for children to have experiences of talking with a foreigner face to face and of making and eating an unknown dish, even though they do all processes in Japanese.

2. 大使館訪問 在京の外国大使館を訪問し、子ども達はその国のこと、大使館の役割、また日本との関係などを学び、多様性を知り、国際感覚を養うことを目的としています。今まで訪問した国は、カナダ、フランス、サウジアラビア、インド、エクアドル、モンゴルなど数多くあります。ユース部員が引率していますが、参加者が子どもなので、安全を第一に考えて行っています。JICA地球ひろばや外務省なども併せて訪問しています。

2. Visit to an Embassy

Children visit a foreign embassy in Tokyo in order to learn about a country, a role of an embassy, and a relationship with Japan, to understand diversity, and to develop global awareness. We have visited many embassies such as of France, of Canada, of Saudi Arabia, of India, of Ecuador, and of Mongolian State. YIE members accompany children on a field trip and their safety always comes first.

Children also visit JICA GLOBAL PLAZA, the Ministry of Foreign Affairs of Japan, and others.

3. 適応指導 親と共に来日し、日本語能力が皆無か不十分な上、日本での生活も不安の中にある子ども達が学校生活に適應できるように指導しています。日本語はもちろん日本の生活習慣、日本人に対する対応などを習得できるように支援することが目標です。担当しているユース部員は教員免許を持っていて、学習面での支援も行っています。多摩市の委託事業で、120分35回です。それで不十分な場合、希望すればボランティアで継続して同程度の支援を行ないます。外国人がクラスに入ってきたことで、日本の子ども達も世界が広がることと思います。

3. Adaptation Lesson

We instruct children who have immigrated to Japan with their parents without sufficient Japanese skill and feel anxious about life in Japan in order that they can adapt to Japanese school life. The goal of the lesson is to help them with learning how to deal with Japanese people and Japanese life style besides learning Japanese. Every YIE member in charge has a teacher's license and supports children from the aspect of study, too. This is a commission project by Tama City. The number of lessons is 35 and 120 minutes per lesson. If it is not enough, volunteers give support at the same level as mentioned above based on children's needs. Japanese children will be able to discover whole new world by having a foreigner in their class.

今の状況が早く収束し、子ども達がさまざまな国を学び、体験できることを願っています。

We wish that the situation settles down and children can learn about many countries and experience with their cultures.

日本人の視線

JAPANESE POINT OF VIEW ABOUT LIFE ABROAD

日本人が外国に行って初めて気づく日本との習慣との違いや驚き戸惑いは何でしょうか。 In this issue, Japanese people will share their experiences abroad.

ポーランド国で日本語教育に携わって

小山良夫 (前 TIC ボランティア日本語講師)

A Japanese Language Teacher's Eyes in Poland

Yoshio Koyama, Ex-TIC Japanese volunteer teacher

私は現在、ポーランド国の南東部に位置するジェシュフ市の工科大学に、日本語講座のボランティア教師として2021年9月末から滞在しています。TICでは2015年からボランティア日本語教師として、日本語セミナーに参加させて頂きました。



現地に着任した時は、黄金の秋と呼ばれる季節がちょうど始まった頃でした。公園や川辺の散歩道沿いの木々の葉はみな黄金色に輝き、日本の紅葉とはまた違った美しい色でした。しかし10月の半ばを過ぎると日没時間が急に早くなり夜が長くなってきました。11月になると最低気温が急速に下がって12月には零下を記録、12月5日には初雪が降りました。

現地での仕事は大学の学生を対象に日本語を教えることですが、受講希望者を募ったところ大学院生や教職員も含めて90人近くの希望者があったため、全員を6クラスに分けて週6回(各クラス週1回90分)の授業をすることになりました。退職後のボランティアの仕事としては少し忙しい感じですが、お陰で退屈することはありません。

住居は大学が提供してくれたゲスト用宿舎で、食事は基本自炊ですが、大学の食堂の定食は毎日メニューの違ったポーランド料理が出るので大いに活用しています。ポテトと肉料理の主食に必ずスープと野菜の漬物かサラダが付いてくるので、栄養のバランスが良い上にポーランド料理のバリエーションが楽しめます。

ポーランド人について感じたことを述べますと、まず担当する工科系の学生たちは皆素直で、理解力は総じて高いと思います。趣味や余暇の過ごし方を聞くと、読書や映画、旅行、スポーツ、ゲームなどのほか、アニメと漫画に多くの学生が興味を示します。日本語への関心も、小さいころから親しんでいる日本の漫画やアニメに由来すると答える学生が多く、日本のサブカルチャーの海外の若者への影響力の大きさに改めて驚かされました。

ポーランドは西欧諸国一般と比べて社会的にも人間的にも素朴さが残っていると感じます。まず治安が良いことが特長です。夜遅く女性が一人で歩いていても全く問題ありません。

食料品などの物価が西欧諸国や日本、アメリカなどと比べても格段に安いと感じます。また学生たちを見ると、学生寮に生活していても週末になると近隣の実家に帰って家族と一緒に過ごすという学生が多く、家族との時間を大事にするという傾向が強みられます。

まだ現地に来て4か月足らずですが、これからポーランドという国と社会を、生活者の目線で体験できるのが楽しみです。

I'm presently staying in Poland as a volunteer Japanese language teacher from the end of September 2021. The place is at a local university in the Rzeszow City located in the South-Eastern part of Poland.

When I arrived at Rzeszow City, the beautiful season called "the Golden Autumn" has just started in Poland. The leaves of the trees in the parks or the river side passages have changed in golden color, which is different from the coloring in Japan. In November, the temperature went down rapidly day by day, and it became below zero in December, and finally we had the first snow fall on 5th December.

My assignment in Poland is to teach Japanese language to the University students. When the students were recruited, more than 90 people, including post graduate students and university staff, had applied to the Japanese classes. So finally, they were divided into 6-groups and 6 classes per week have started. It sounds a bit heavy work for a retired man, but it's good that I feel always busy. The university provided a fully furnished guest house for free, and I'm basically cooking myself. But there is a university cafeteria where they serve daily set Polish lunch, which contains main dish with meat & potato, soup, and pickles or salad. I like this set lunch and have it frequently since it is not only a nutritiously balanced but also I can enjoy the variety of Polish dishes.

Let me tell about the impressions of the Polish youth. The students I teach are generally rustic and highly intelligent. When I asked them how to spend their leisure time, they answered reading, watching movies, travels, sports, TV games, and "Anime and Manga". I was surprised to know the magnitude of impact by the Japanese sub-culture to the youth in Poland. In my personal observation, Poland seems to keep their homeliness in the society and people more compared with the Western European countries. The security in town is very good. The price of food and living are generally very cheap. Looking at the university students who are living in the dormitory, they tend to go back to their parents' house on every weekends. They think that the time they spend with their family is very important and valuable.

Only 4 months have passed since I arrived here. I'm hoping to learn more about Poland and Polish society with the eyes of a foreign resident in the near future.

ジェシュフ市のモニュメント→



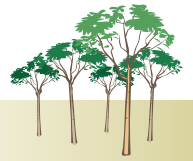
日本語クラスの様子



ポーランドの餃子ピエロギとポーランド料理



うご
グラフ・TICの動き
 TIC activities by photos



9/26



国際理解講座「トルコ」
 International Understanding Lecture: Turkey



10/21
 ~24



多摩市民文化祭参加 Cultural Festival Participation



11/23



秋の散歩 Enjoy walking in Autumn



11/28



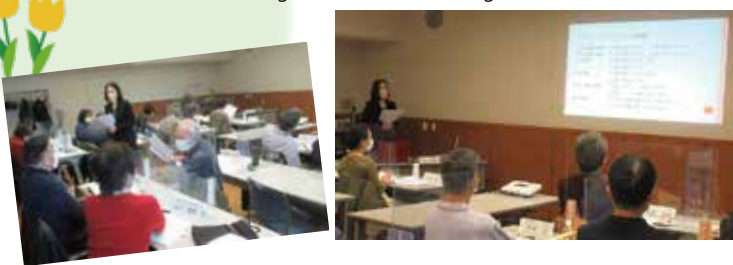
防災教室 Lesson for foreigners about disaster prevention



1/8~2/26



日本語ボランティア養成講座
 Nihongo Volunteers Training Course



編集後記

一般的に日本人は外国語が苦手だと思われています。日本は島国ですので陸続きの外国もなく、日本語だけでなんの不自由もありませんでした。しかしインターネットですべての国が繋がる昨今、外国語、特に英語は必須になります。TICの会員は年齢に関係なく(ここが大事)様々な外国語の習得にチャレンジしています。そんな様子を特集ページをご覧ください。

Editor's Note

Generally, it is said that Japanese people aren't good at speaking foreign languages. Since Japan is an island country, there were no other countries connected to the land, and the Japanese people can simply speak Japanese enough to communicate with each others. But nowadays that all countries in the world are connected on the Internet, foreign languages, especially English is essential. The TIC members are trying to learn a variety of foreign languages regardless of their age (this is worthwhile thing). Read the feature article on the first page.

多摩市国際交流センター

〒206-0011 東京都多摩市関戸4-72
 ヴィータ・コミュニティー7階 TEL 042-355-2118
 FAX 042-355-2104

発行: 広報部 代表 最上 勉
 編集 竹内佳代子
 翻訳 竹内佳代子、村上フェ、千葉大樹

2022年3月10日発行

* 当会報へのご意見ご希望をお寄せ下さい。
 * また、当会報は、別紙でハングル版と中国語版が、用意されています。ご希望の方は、上記までご連絡下さい。お送りします。

(表紙・画: Darin Gerhart)

Tama City International Center (TIC)

We look forward to any comments, suggestions and topics. This newsletter is also translated into Korean and Chinese and is available upon request.

Please contact us at the following address:

7F VITA Commune
 4-72 Sekido, Tama City, Tokyo, 206-0011
 Tel: 042-355-2118 Fax: 042-355-2104

E-mail: tic@kdn.biglobe.ne.jp
 URL: https://www.tic-tama.jp
 Twitter: https://twitter.com/tic_office

Published by: Public Relations Division
 Representative: Tsutomu Mogami
 Editor: Kayoko Takeuchi
 Translations: Kayoko Takeuchi, Fe Murakami
 Daiki Chiba

Issued March 10, 2022